

パーキンソン病における急性無動症に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院・板橋中央総合病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間: (2025年9月2日 ~ 2027年3月31日)

〔研究課題〕 Acute akinetic collapse の臨床症候に関する後ろ向き研究

〔研究目的〕 Parkinson 病(PD)患者様の運動症状の急性増悪により長時間の無動を生じる病態として、parkinsonism hyperpyrexia syndrome (PHS)が知られています。これは、意識障害や自律神経障害、発熱、筋強剛などを呈する症候群で、PD 治療薬の急な変更や中断が関係していると言われています。一方で、PD 病患者様の運動症状の急性増悪のうち、筋強剛や自律神経障害を呈さない一群も臨床ではしばしば経験します。しかしこの症候については現時点で確立された疾患としての報告はなく、本研究ではこの臨床症候 (acute akinetic collapse と呼ぶことを提唱する予定です) の特徴をまとめて報告することを目的としています。

〔研究意義〕 Acute akinetic collapse は臨床医と患者様の間でリスク因子が共有されていれば、防げるはずの病態です。臨床像の検討を通して発症予防に寄与すれば、臨床的・社会的意義は大きいと考えます。

〔対象・研究方法〕 2000年1月1日から2025年7月末までに、帝京大学医学部附属病院脳神経内科及び板橋中央総合病院脳神経内科に緊急入院した患者様の臨床情報を後ろ向きに検討し、エントリー基準を設けてパーキンソン病患者様をピックアップします。それらの症例の臨床的特徴を検討します。

〔研究機関名〕 研究代表機関 帝京大学(研究代表者 萩原夕紀)、共同研究機関 板橋中央総合病院

〔個人情報の取り扱い〕 収集したデータは、個人毎に情報を加工したデータとしてデータ管理責任者が常時施錠される医局内のコンピュータのハードディスクに責任をもって保管し、パスワードを設定して研究責任者及びデータ管理責任者以外がアクセスできない体制とします。研究終了後には研究代表者が保管の対象となる記録類一式を DVD-R に記録し、封かん用封筒に詰め、帝京大学医学系研究倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センター(以下、「TARC」)にて保管させていただきます。TARC による保管期間は研究終了から10年であり、研究責任者から延長の申し出がない場合は、TARC により適切に破棄されます。また、学会論文等での公表は集計結果のみであり、個々人の情報は提示しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部脳神経内科学講座・臨床助手 萩原夕紀
研究分担者: 帝京大学医学部脳神経内科学講座・主任教授 小林俊輔
住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部附属病院神経内科 (03-3964-1211) [内線 7113]